

色を重ね、想い重ねて

「京のつちたま」の色は平安の12色。平安時代、四季折々の自然の彩りなどを衣裳の色に重ねてのせた「襲（かさね）の色目」を取り入れて、京の伝統を受け継いでいます。

つちたまの色には、一つ一つに意味が込められています。「一途

「つちたま」の十二色

黒椽（くろつるばみ）・紫みの黒色

すべてを包み込む心

濃藍（こいあい）・濃い青色

一途な気持ち

浅葱（あさぎ）・緑みの青色

奥ゆかしき姿

桜（さくら）・薄い紅色

ほのかな想い

黄檗染（こうろぜん）・赤茶色

安定した世界

萌黄（もえぎ）・黄緑色

恋の気配

な気持ち」をあなたに、「永遠の若さ」をいつまでも、「遠き思い

出」を大切に……。伝えたい気持ち、願う心、今の気分など、それぞれ色にのせて、自分だけのオリジナルアクセサリーを作ることができます。つちたまの色には、そんな平安時代の物語をイメージさせるような面白さと遊び心があります。

苔（こけ）・濃い黄緑色

心の癒やし

松葉（まつば）・深緑色

永遠の若さ

黄支子（きくちなし）・明るい黄色

秘めた想い

承和（そが）・薄い黄色

ろうたける（※）思い

紫苑（しおん）・くすんだ青紫色

遠き思い出

練（ねり）・絹の白色

無垢な心

※ろうたける…

洗練された、経験を積んだの意味

「つちたまは、色が命です。色の不思議。色の効果。色を重ねる。一瞬のひらめきがありました。

以前から、平安の色重ねを知っていました。色重ねは女性の教養であり、アピールです。自然を表すもの、四季を表すもの。昔の人は感性が豊かでした。色に人の思いや願いを込める。色で気分を表せて、色で気分が変わり、色で気分を変えられる。魅力は色。万人が感じる色。

つちたまは『夢のたま』。人の望み、夢のかたまり。そんな『夢のたま』が色になり、花開く。つちたまは、夢色なのです」

（京都伝統工芸大学校
教授 工藤 良健 氏）



色重ね
想い
重ねし
夢のたま

技極め、マイスターに認定

京都府南丹広域振興局で昨年10月に創設された「障害者南丹地域マイスター制度」。さまざまな分野で卓越した技術のある障がい者をマイスターとして認定し、今後さらなる活躍を支えていこうとするものです。

このマイスター第1号に、京都太陽の園に通所する上原つる代さん（亀岡市）が認定されました。上原さんはニッパなどの道具を使って、ネックレスやピアスなど商品ごとに小さな金具をつちたまに取り付ける細かい作業を担当されています。その高い技術が認められ、マイスター認定証が授与されました。これまでもビーズアクセサリー作りを担当されるなど、細かい作業を積み重ねる中で身に付いた技術とのこと。上原さんの手の中で、小さなつちたまに商品としての命が吹き込まれていきます。



▲高い技術が認められた上原さん